

# バドミントンS/Jリーグ2022 横浜大会の様様



## 一瞬“勝てるのでは”

第1ダブルスでは、佐伯健人/浅原大輔(テルウェル東日本/NTT東日本-東北)組が現役日本A代表で日本ランキング2位の日立ペアと対戦。第一ゲーム序盤は、上々の滑り出しで7-2と大きくリードする場面もあり、一瞬“勝てるのでは”と思ったほど期待を持たせたが、ここから日立ペアの猛攻が始まり、徐々に劣勢となり、逆転され16-21で第一ゲームを失った。第二ゲーム目も、終盤まで互角なラリーを展開し、日本代表の日立ペアを苦しめるも最後は地力に勝る日立ペアが勝利した。東北マークスペアも日本代表ペアと互角に戦えることがわかった、今後の試合に期待が持てるいい試合となった。

1stD:佐伯健人/浅原大輔 0[16-21、17-21]2 竹内義憲/松居圭一郎

## 久しぶりの同期生対決

シングルスは澁谷勇希(大和電設工業)が全日本ランキングサーキット大会準優勝で日本ランキング7位の日立選手と対戦。同期生で学生時代にも対戦のある2人の久々の対戦は、第一ゲームから長いラリーの多い如何にも“我慢比べ”のシングルス展開であった。そんな中、地力に勝る日立選手に要所所でエースを決められ第一ゲームを失った。第二ゲームも第一ゲーム同様に、長いラリー展開となりお互いに点を取りあう試合展開となったが、終盤体力に勝る日立選手が抜け出し、14本でこのゲームを失い、0-2で敗退した。厳しい戦いが続いているが、次戦の仙台大会では勝利を掴んでほしい。

1stS:澁谷勇希 0[13-21、14-21]2 小本翔太



## 次戦に期待できる内容

第2ダブルスは鈴木大裕/葺澤智樹(NTTファシリティーズ/ドコモビジネスソリューションズ)が全日本社会人選手権3位で日本ランキング13位、今季S/Jリーグ全勝の日立ペアと対戦。第一ゲームは、今S/Jリーグで自信がついてきた葺澤選手がコートを駆け回り、終盤まで競り合うも惜しくも17本でゲームを落とした。第二ゲームに入り、ベテラン鈴木選手の巧みなネット前でのプレーで一時はリードする場面もあったが、さすがに日立ペアもだまってははいない。強力なスマッシュ攻撃、連続攻撃で一気に逆転。そのまま流れを取り戻せず、東北マークスペアは12本で敗退した。試合内容は、点数以上に良かったので、次戦の仙台大会に大いに期待したい。

2ndD:鈴木大裕/葺澤智樹 0[17-21、12-21]2 霜上雄一/野村拓海

日立情報通信エンジニアリングチームの地元横浜会場に、1,400名もの大応援団が集結、会場はチームカラーのオレンジ色で染まった。

## マークスタンス?!

チームメイトを激励するパフォーマンス



開始式前のバドミントン教室で胸を貸す日光選手

